



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年8月5日

上場会社名 株式会社ハウス オブ ローゼ 上場取引所 東
コード番号 7506 URL <https://www.houseofrose.co.jp>
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 川口 善弘
問合せ先責任者（役職名） 取締役管理本部長（氏名） 佐藤 哲（TEL）03-5114-5800
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2027年3月期第1四半期の業績（2026年4月1日～2026年6月30日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2027年3月期第1四半期	2,538	△1.3	△300	—	△299	—	△226	—
2026年3月期第1四半期	2,571	△4.2	△259	—	△257	—	△239	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	△48.09	—
2026年3月期第1四半期	△50.99	—

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2027年3月期第1四半期	7,777	5,195	66.8
2026年3月期	7,980	5,476	68.6

（参考）自己資本 2027年3月期第1四半期 5,195百万円 2026年3月期 5,476百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	12.50	—	12.50	25.00
2027年3月期	—				
2027年3月期（予想）		12.50	—	12.50	25.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年3月期の業績予想（2026年4月1日～2027年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	12,100	4.8	160	129.7	160	113.3	14	738.0	2.98

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年3月期1Q	4,703,063株	2026年3月期	4,703,063株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	633株	2026年3月期	633株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2027年3月期1Q	4,702,430株	2026年3月期1Q	4,702,430株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第1四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(セグメント情報等の注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期におけるわが国経済は、物価上昇が継続する一方、雇用・所得環境の改善や政府による物価高対策等を背景に、個人消費は緩やかな持ち直しの動きがみられました。一方で、中東情勢をはじめとする地政学的リスクの高まりによる資源価格の上昇や円安の進行、資本市場の変動の影響等、経済環境の先行きは不透明な状況が続いております。このような中、2027年3月期は3ヶ年中期経営計画の中核年度として、重要戦略を実行フェーズに移し、新たな成長に向け具体的な成果として発現させる1年と位置付けております。

(直営店商品販売事業)

ハウス オブ ローゼ直営店は、中期経営計画の下、引き続き当社の強みである「素肌みがき」に注力し営業力強化に取り組んでおります。具体的には「角質ケア」を象徴領域とし、体験価値「ふれる（触れる）接客・ハンドウォッシュ」と商品価値、店舗環境の掛け合わせにより顧客満足度の向上に努めております。また、現在取り組みを進めている1ID化（商品購入ポイントの共通化）については、10月以降の直営店舗とEC事業のメンバーズシステム統合を視野に入れ、お客さまの利便性をより高めるべくサービス向上に努め、会員数増を図るとともに、購買行動の可視化を通じたタイムリーな営業施策を推進してまいります。

当第1四半期においては、今期4月にリニューアル発売した新スキンケアライン「ミルキュアミー」は概ね計画通りの滑り出しとなった一方、6月の天候不順に伴う夏季限定商品の買い控えやサマーセール前半の集客苦戦、大型キャンペーンの内容変更、不採算店舗の退店影響等により、売上高は前年同期比6.9%減となりました。

EC事業は、自社運営サイトにおいて、天候不順に伴い夏季限定商品の買い控えが発生したほか、主力商品であるボディスムーザーの苦戦により売上高は前年同期比4.2%減となりました。一方、Amazonモールを始めとする外部モールにおいては夏季商材が苦戦したものの、集客イベントの強化や広告施策の改善が奏功しました。その結果、EC事業全体の売上高は、前年同期比10.5%増となりました。

他の直営店商品販売事業を加えた当事業売上高は18億63百万円（前年同期比4.1%減）と減収になり、経費面では新商品発売に伴う広告宣伝費の増加等により営業損失2億94百万円（前年同期は営業損失2億65百万円）と損失額が拡大しました。

(卸売販売事業)

卸販売事業は、個人オーナー店舗向け卸において、天候不順等が影響し売上高は前年同期比で微減となりました。大手量販店向け卸は、一般店舗及びセルフ販売型店舗で夏季限定商品やセール商品の出荷が総じて好調に推移し、売上高は前年同期比で約6%増加しました。また一般卸は、ボディスムーザーの苦戦や主要販路である東京ディズニーストアの集客低迷があったものの、昨年4月に事業譲受した「MAMA BUTTER」（ママバター）の出荷が新規販路の拡大も含め順調に進んだことから、売上高は前年同期比で約17%増加しました。以上の結果、当事業売上高は3億60百万円（前年同期比7.9%増）となった一方、共通費の負担により営業損失は38百万円（前年同期は営業損失33百万円）と損失額が拡大しました。

(直営店サービス事業)

リラクゼーションサロン事業は、コース価格の改定により客単価が上昇した一方、スタッフ不足に起因する客数の減少等により、売上高は前年同期比2.8%減となりました。

カーブス事業は、フランチャイザーであるカーブスジャパンのTVCM放映やマーケティング施策が寄与し、会員数は期初比で約190名の純増となりました。また、物販についても販売強化施策が奏功したことで、売上高は前年同期比11.5%増となりました。

以上の結果、当事業売上高は3億14百万円（前年同期比7.0%増）となりましたが、カーブススタッフの正社員化に伴う人件費の増加等により営業利益は32百万円（前年同期比17.9%減）となりました。

以上、当第1四半期の全社売上高は25億38百万円（前年同期比1.3%減）となりました。経費面では新商品発売に伴う広告宣伝費の増加等により、営業損失3億円（前年同期は営業損失2億59百万円）、四半期純損失は2億26百万円（前年同期は純損失2億39百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末より2億2百万円減少し、77億77百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末より2億95百万円減少し、47億61百万円となりました。これは主に、現金及び預金が7億67百万円減少し、商品及び製品が3億62百万円増加したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末より92百万円増加し、30億16百万円となりました。これは主に投資その他の資産のその他が96百万円増加したことによるものであります。

負債合計は、前事業年度末より78百万円増加し、25億82百万円となりました。これは主に、賞与引当金が1億25百万円、役員退職慰労引当金が75百万円が減少したものの、その他流動負債が3億75百万円増加したことによるものであります。

純資産合計は、前事業年度末より2億81百万円減少し、51億95百万円となりました。これは主に利益剰余金が2億84百万円減少したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、前回発表(2026年5月14日決算短信)に記載の業績予想に変更はありません。上記予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2026年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,670,809	1,903,478
売掛金	829,700	884,176
商品及び製品	1,433,445	1,795,974
その他	122,630	177,856
流動資産合計	5,056,586	4,761,486
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	328,637	327,211
工具、器具及び備品（純額）	16,566	15,739
土地	1,066,868	1,066,868
リース資産（純額）	52,931	56,861
建設仮勘定	—	14,630
有形固定資産合計	1,465,003	1,481,311
無形固定資産	134,602	129,947
投資その他の資産		
差入保証金	461,416	445,148
その他	863,191	960,040
投資その他の資産合計	1,324,608	1,405,189
固定資産合計	2,924,214	3,016,447
資産合計	7,980,800	7,777,933
負債の部		
流動負債		
買掛金	237,154	191,807
未払法人税等	71,802	28,003
賞与引当金	167,166	41,300
その他	547,516	922,619
流動負債合計	1,023,638	1,183,730
固定負債		
退職給付引当金	1,198,947	1,191,213
役員退職慰労引当金	101,494	26,080
資産除去債務	168,920	167,444
その他	10,965	14,364
固定負債合計	1,480,328	1,399,102
負債合計	2,503,966	2,582,832
純資産の部		
株主資本		
資本金	934,682	934,682
資本剰余金	1,282,222	1,282,222
利益剰余金	3,296,067	3,011,148
自己株式	△724	△724
株主資本合計	5,512,246	5,227,328
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8,320	11,507
土地再評価差額金	△43,733	△43,733
評価・換算差額等合計	△35,412	△32,226
純資産合計	5,476,833	5,195,101
負債純資産合計	7,980,800	7,777,933

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	2,571,335	2,538,684
売上原価	772,397	785,702
売上総利益	1,798,937	1,752,982
販売費及び一般管理費	2,058,772	2,053,245
営業損失(△)	△259,834	△300,262
営業外収益		
受取利息	—	25
受取配当金	1,410	305
その他	1,143	693
営業外収益合計	2,553	1,024
営業外費用		
支払利息	421	369
その他	102	99
営業外費用合計	523	469
経常損失(△)	△257,804	△299,707
税引前四半期純損失(△)	△257,804	△299,707
法人税、住民税及び事業税	18,500	19,950
法人税等調整額	△36,536	△93,519
法人税等合計	△18,036	△73,569
四半期純損失(△)	△239,767	△226,138

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

I 前第1四半期累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	直営店商品販売事業	卸販売事業	直営店サービス事業	合計
売上高				
外部顧客への売上高	1,943,619	333,817	293,898	2,571,335
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	1,943,619	333,817	293,898	2,571,335
セグメント利益又は損失(△)	△265,873	△33,891	39,930	△259,834

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

前第1四半期累計期間に「MAMA BUTTER」(ママバター)ブランド譲受により、各報告セグメントに配分していない全社資産においてのれんの金額が136,111千円増加しております。

Ⅱ 当第1四半期累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	直営店商品販売事業	卸販売事業	直営店サービス事業	合計
売上高				
外部顧客への売上高	1,863,840	360,230	314,613	2,538,684
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	1,863,840	360,230	314,613	2,538,684
セグメント利益又は損失(△)	△294,400	△38,664	32,801	△300,262

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	19,936千円	19,639千円
のれん償却額	— 千円	5,833千円